

「認知症ケアチーム」を紹介いたします!

「認知症ケアチーム」とは?

近い将来訪れる高齢化社会に伴い、今後、認知症をお持ちの方の数がますます増加していくことが予想されます。さらに、認知症の方が患者さんとなって入院する場合、入院といった環境の変化への適応が難しく、認知症の症状がさらに悪化することが懸念されます。

「認知症ケアチーム」は、認知症による行動や意思疎通が困難な入院患者さんに対して、身体疾患の治療を円滑に受けられるよう、専門知識を持ったチームスタッフが、主治医及び病棟看護師と協力しながら、療養環境の支援を行う医療チームです。



メンバー紹介

★認知症看護認定看護師 滝沢 なぎさ

～一番身近にいる看護師へなんでもご相談下さい～

当院では、認知症対応力向上研修を受講した看護師が各病棟に1名以上配置されており、どの病棟においても、質の高い認知症看護が提供できる体制が整っています。また、これらの看護師は、認知症ケアチームの一員として、認知症看護認定看護師を筆頭に、多職種と連携しながら入院生活を支援していきます。

認知症の方の意思が尊重され、認知症の方とその家族が、笑顔で安心した日々が送れるように看護していきます。何か困ったことがあれば遠慮せずご相談ください。

★主任作業療法士 中村 恵一

認知症ケアに対して行われるリハビリテーションは、認知症に伴う活動低下や外部環境と上手に適合できない等について改善・緩和することを目的としています。

認知症ケアチームが巡回を行う際には、患者さんの身体・精神状態を確認し、必要に応じてリハビリテーションを行わせていただきます。

日常生活動作や運動について困った点がございましたら、どうぞご相談ください。

★主任薬剤師 中田 吉則

認知症患者さんに対する薬剤師の関わりについて紹介します。

1つ目として、認知症患者さんの多くはもともとお持ちの病気に加え、不眠や痛み、便秘、頻尿などの症状のために、毎日多くのお薬を飲んでいますが、お薬によっては認知機能を下げってしまうものもありますので、薬剤師は、このような患者さんが飲んでいるお薬を調べ、症状に悪い影響を与えていないかチェックしています。

2つ目として、認知症では、「BPSD」という暴言、暴力、抑うつ、妄想などのさまざまな行動・心理症状を発症し、円滑な治療の妨げとなる場合があります。このような症状を和らげるために、薬剤師は患者さんの体に最も合ったお薬の種類や量を医師とともに考えます。

3つ目として、認知症の患者さんでは、飲み込む力が低下したり、服薬をいやがったりすることで、お薬を飲み続けるのが難しくなることがあります。認知症のお薬には錠剤以外に、水薬や粉薬、ゼリーになり飲みやすくなったもの、貼り薬などがありますので、薬剤師は、患者さんの服薬能力を判断し、患者さんに合った服薬方法を考えます。

薬剤師は、こうした関わりで、患者さんがよりよい治療が受けられるよう協力させていただきます。

**★医療ソーシャルワーカー (MSW) 田中 裕士**

認知症ケアチームの一員である医療ソーシャルワーカーは、患者さんが利用できる社会福祉・保障サービスや社会資源の活用について説明、利用支援を行っており、退院後の生活を具体的に考え、整えられるよう相談に応じております。認知症の方にとって身近な制度である介護保険制度については、手続き方法やサービス内容等のご説明をしております。予約制となっておりますので、まずは、当院「よろず相談室」までお気軽にお問合せ下さい。



「認知症ケアチーム」 写真左より、中村主任作業療法士、中田主任薬剤師、亀山神経内科部長、滝沢認定看護師、田中医療ソーシャルワーカー